

## 1 令和4年度実施結果

【実施校数：合計28校（25運営協議会）】

○小学校（22校）			
中）盤溪小	東）栄南小（中連携）	清）清田小（真栄小連携）	西）発寒小
北）幌北小	札苗緑小	清田緑小	手稲東小
新琴似北小	厚）信濃小	真栄小（清田小連携）	発寒西小
屯田南小	ひばりが丘小	南）定山溪小（中連携）	二十四軒小
太平南小	豊）平岸小	芸術の森小	手）手稲中央小
	福住小		手稲北小
○中学校（5校）		○高等支援学校（1校）	
東）栄南中（小連携）	南）定山溪中	手）手稲西中	南）みなみの杜高等支援
白）東白石中	（小連携）	星置中	

【事業初年度からの経年推移】※R2（）内の数字は年度当初の契約校数

		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
実施校数		3	14	24	30	43	47	12(15)	14	28
内訳	小学校	3	11	19	23	33	36	11(13)	10	22
	中学校	-	3	5	7	10	10	0(1)	4	5
	高等支援	-	-	-	-	-	1	1	-	1
運営協議会数		3	14	24	27	39	41	12(15)	13	25

【アクションプラン2019 事業目標達成状況】

（指標）多様な学びや体験の場に参加した子どもの年間参加者数

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
目標値	-	-	-	-	-	17,220	1,000	1,600	9,500
子どもの参加者数	2,874	6,917	10,239	12,763	16,380	15,913	1,165	1,278	9,611
（プログラム数）	31	113	196	228	294	304	32	35	240

※新型コロナウイルス感染症の影響を受け、R2～R4は目標値を下方修正。

※R4参加者数はR5.2時点の報告を集計したもの。

【平日拡大の取組事例で見えた効果】

### 効果

- ・教育課程内や放課後の活動により、これまで参加機会に恵まれなかった子どもに対しても幅広く体験機会等の提供ができる。
- ・ゲストティーチャーの招聘など、教育活動の実施における各種調整をコーディネーターが担うことで、一定程度、教職員の負担軽減に資する取組が見込める。
- ・実施日の柔軟性により、子どもに係わる様々な人材や団体が活動に参画しやすくなり、本事業を通して地域間の新たなつながりが形成される。

## 2 アンケート調査の回答

全小中学校、高等支援学校に対し、来年度の事業実施の意向確認や地域との連携の状況等を調査するためアンケートを実施した（対象296校中245校回答）

### ■来年度の実施意向

- 今年度実施校のうち継続を予定している学校：26校
- 新規で実施を予定している学校：9校
- 実施を検討する学校：48校

来年度は計35校以上で実施を予定。  
検討を予定している学校に対しては、市教委による個別支援や研修の開催により、実施実現へと繋げていく。

### ■調査により得られた意見

Q 社会に開かれた教育課程や、学校の働き方改革の実現、学校が抱える課題等へ効果的に対応するため、地域との連携・協働の体制構築は必要と感じるか。  
⇒約9割以上の学校で「必要だと感じる」との回答

Q 地域との連携・協働の取組の中で今後地域に担って欲しいこと（回答数上位4つ）

- ① 授業等におけるゲストティーチャー
- ② 職場・職業体験の実施
- ③ 校内巡視、校外学習引率補助、清掃・環境美化などの学校支援に関する活動
- ④ 外部人材（団体）活用における調整役

Q（今年度実施校を対象に質問）今年度の活動を通じて感じた効果（回答数上位4つ）

- ① 地域との連携の強化
- ② 教職員の負担軽減
- ③ 児童生徒の学力・学習意欲の向上
- ④ 児童生徒の地域に対する理解促進や愛着の形成

Q（今年度実施校を対象に質問）事業実施における地域と学校の連携の状況

- 学校と地域の意向を双方尊重するかたちで実施できた 11校
- 学校の意向がやや強いが地域と連携して実施できた 10校
- 地域の意向がやや強いが連携して実施できた 3校

## 3 今後の方向性

サッポロサタデースクール事業で培ってきた経験等を生かし、今後段階的に実施手法を見直しながら、地域と学校の持続可能な連携・協働の体制づくりを支援し、地域全体で子どもを育てる環境を醸成する。

令和5年度はサタデースクール事業のスキームをベースに、「地域学校協働活動推進事業」として、これまで同様、プログラム実施型の年間委託契約で実施。学校や運営協議会等からご意見を頂きながら、事業の構築を進めていく。

# 札幌市社会教育委員会議 議論の記録(案)

(令和3年度～令和4年度)

# 会議経過

## 【令和3年度】

- ▶第1回会議（令和3年8月30日）
  - （報告事項）・サッポロサタデースクール事業について
  - ・第3次札幌市生涯学習推進構想について
  - （協議事項）・社会教育委員会議の進め方について
  - ・社会教育委員会議の協議テーマについて・・・・・・・・・・・・・1
- ▶第2回会議（令和4年1月28日）
  - （協議事項）・サッポロサタデースクール事業
  - 令和3年度実施状況及び令和4年度実施方針案について
  - （報告事項）・第3次札幌市生涯学習推進構想の令和2年度実施状況について
- ▶第3回会議（令和4年3月28日）
  - （報告事項）・令和4年度札幌市教育費予算について
  - ・サッポロサタデースクール事業
  - 令和3年度実施状況及び令和4年度実施方針について
  - （協議事項）・協議テーマ「人生100年時代の生涯学習①」・・・・・・・・・・・・・2

## 【令和4年度】

- ▶第1回会議（令和4年6月27日）
  - （報告事項）・第3次札幌市生涯学習推進構想におけるアンケート調査の実施について
  - （協議事項）・協議テーマ「人生100年時代の生涯学習②」・・・・・・・・・・・・・5
- ▶第2回会議（令和4年11月17日）
  - （報告事項）・第3次札幌市生涯学習推進構想の令和3年度実施状況について
  - （視察・協議）・札幌市図書・情報館視察
  - ・学びに対する無関心層にどう働きかけるか①・・・・・・・・・・・・・8
- ▶第3回会議（令和5年1月27日）
  - （協議事項）・サッポロサタデースクール事業
  - 令和4年度実施状況及び令和5年度実施方針案について
  - ・学びに対する無関心層にどう働きかけるか②・・・・・・・・・・・・・10
- ▶第4回会議（令和5年3月16日）
  - （報告事項）・サッポロサタデースクール事業
  - 令和4年度実施状況及び令和5年度実施方針について
  - ・令和5年度札幌市教育費予算について
  - （協議事項）・「人生100年時代の生涯学習」2年間の議論について・・・・・・・・・・・・・11

# 社会教育委員会議の協議テーマについて

令和3年8月30日

## 【協議テーマ】

## 【具体的な論点】

### 人生100年時代と生涯学習

- ◆ 本格的な高齢社会の到来を迎えて、生涯現役は誰もが願うテーマ。
- ◆ 趣味の充実や健康維持といった身近なテーマから新たな技能の習得や学究的なテーマまで幅広い内容が考えられる。
- ◆ 長く社会で活躍してもらう視点からも、このような学びの機会を充実していくことで、これからの地域社会が一層活性化するのではないか。

◎ I-1-4 高齢期を豊かに過ごす学びの充実 ◎ II-5-1 4 学んだ成果を地域で生かす取組の充実

- これからの時代に必要な学びと効果的な学習機会の提供方法とは
- 人生に活かせる学びとするためには何が必要か

### 情報社会の進展と生涯学習

- ◆ コロナ禍において、ワクチン接種予約の場面で、高齢者等のICT弱者対策が問題となった。
- ◆ 情報社会の進展が目覚ましい一方、高齢者等のICT弱者に対する効果的な学習手法と学習機会の提供（の場）が必要となっている。
- ◆ コロナ禍においては対面形式による学びが難しくなり、ICT技術を活用した新たな学びの形態が求められることとなった。

◎ I-1-4 高齢期を豊かに過ごす学びの充実 ◎ I-2-5 現代的・社会的な課題に対応した学習機会の充実

- ICT弱者に効果的なスキルアップの方法とは
- 情報化社会に取り残されないために必要なことは何か
- アフターコロナ時代の生涯学習の形とは

### 子ども若者の主体的な社会参加と多世代交流

- ◆ 次世代の育成という観点でも、子どもや若者が地域の課題解決に主体的に参画することが重要になっているのではないかと。
- ◆ コロナ禍において学びのデジタル化が一気に進展しているが、子どもや若者の育成においては実体験の必要性、重要性は変わらないのではないかと。
- ◆ 子どもや若者が、地域において様々な経験や多様な活動に主体的に関わることにより、地域のたくましい担い手に育ってくれるのではないかと。

◎ I-1-2 青少年期を育む学びの充実 ◎ II-4-1 2 地域と学校が連携する取組の推進

- 子どもや若者を主体的に社会参加させる工夫とは
- 子ども、若者に必要な体験活動・社会参加とは
- 子どもの体験活動・社会参加における学校と地域の連携と役割分担

※これらのテーマは、令和2年9月の第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理においても、『生涯学習・社会教育をめぐる現状・課題』として取り上げられている。

### <協議テーマの考え方>

- ① 札幌市の生涯学習・社会教育をめぐる現状・課題を踏まえているか。
- ② 第3次札幌市生涯学習推進構想など市の施策に関連する内容で、社会教育に資する協議テーマであるか。 (◎)
- ③ 意見交換の結果を市民に還元することを意識して、具体的な協議テーマとなっているか。

- 今期の社会教育委員会議においては、社会情勢の急激な変化に対応し、その時々において各委員の問題意識に基づきテーマを設定し、意見交換を行うこととした。
- 最初の協議するテーマを決めるに際し、令和2年9月の第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理を参考に、「生涯学習・社会教育における現状・課題」の中から、上記3点を案として提示した。
- その結果、超高齢社会の到来により「生涯現役」は誰もが願うテーマであり、人生100年時代に生きる人々が、生涯現役を実現するために、各世代における生涯学習のあり方を議論したいという意見があり、その点から議論を開始することとした。



# 人生100年時代の生涯学習①

令和4年3月28日

## 1. テーマ概要

- ・ 超高齢社会の到来により、生涯現役は誰もが願うテーマである。人生100年時代に生きる人々が、生涯現役を実現するため、各世代における生涯学習の在り方を議論したい。

参考 [第3次札幌市生涯学習推進構想 関連事業一部抜粋]

<b>基本</b> 【施策の方向性1】	● 学びを活かして未来を創造する人づくり 【施策の方向性1】 各世代のニーズに応じた学びの推進	<b>基本</b> 【施策の方向性5】	● 学びで育むつながりづくり 【施策の方向性5】 学びを地域づくりに生かす取組の推進
<b>【施策の展開】</b> 高年齢者を豊かに過ごす学びの充実	<b>【施策の展開】</b> 成人期の多様なニーズに対応するための学びの充実	<b>【施策の展開】</b> 地域づくりに向けた学びの推進	
○札幌シニア大学運営 保) 高齢福祉課 社会活動の促進や、生きがいの向上を図るため、地域社会活動のリーダー養成を目的に、講座等の学習機会を提供。	○女性社員の活躍応援事業 経) 雇用推進課 働き続けることを望む女性が結婚・出産を機に離職しないよう、働きやすい環境整備のため、企業へ出前講座等を実施。	○次世代の活動の担い手育成事業 市) 市民自治推進課 次世代のまちづくり活動の担い手を育成するため、小学校や児童会館等で、まちづくり活動を学べるボードゲームを活用した学びを提供。イベントの開催等で子どもや若者を対象としたまちづくり活動への参加機会の創出	

## 2. 各世代の特性

※文部科学省 超高齢社会における生涯学習の在り方に関する検討会「長寿社会における生涯学習の在り方について（平成24年3月）」より抜粋

### ■ 幼児青少年期

- 特性
  - ・ 学校教育などによる教育機会が中心
  - ・ 核家族化の進行により、高齢者と一緒に生活する機会が減少
  - ・ 成人としての素地を築く時期
  - ・ この時期の学習が高齢期の生き方にも影響
  - ・ 主体的に考えられる能力を養うため、社会と関わる機会の重要性
  - ・ 生涯学習の大切さを考える機会を設ける重要性

### ■ 成人期

- 特性
  - ・ 社会人として生活スタイルが安定する時期
  - ・ 個人の関心や年齢、体力に応じた主体的な活動が可能
  - ・ 仕事や家庭の都合等による身体的、時間的な制約
  - ・ 学習活動や地域社会の取組への積極的な関わりの重要性
  - ・ 仕事以外の人間関係を築く重要性
  - ・ できるだけ早い段階で人生設計を考える必要性
  - ・ ワークライフバランスの重要性

### ■ 高齢期

- 特性
  - ・ 退職によるライフスタイルの変化
  - ・ 人や社会とのかかわりの減少
  - ・ 加齢に伴う心身機能の衰え
  - ・ 老後の経済的な問題
  - ・ 自己実現、生きがいの創出の重要性
  - ・ 多様な働き方による経済的自立の必要性
  - ・ 地域生活を豊かにするコミュニケーション能力の必要性

## 3. 具体的な論点

- 各世代の特性を踏まえ、人生100年時代を豊かに過ごし、生涯現役を実現するためには、人生のそれぞれの時期において、どのような「学び」が必要か。

➢ 人生100年時代の生涯学習をテーマに議論を開始するに際し、各世代における特性を理解し、その上で人生のそれぞれの時期においてどのような「学び」が必要か議論を行った。

➢ 主な意見については、次のとおり。

#### 【白井委員】

- ・大学生の就職に対する意識が、将来の転職を見越して変化している。
- ・高齢者の有職率が高いほど医療費は低い傾向がある。一人ひとりの「生涯現役」の実現が、実は社会への影響が大きい。
- ・成人期の中でもいくつか転機がある。40歳前後では仕事の幅を広げる必要に迫られ、50歳前後では先を見て次のステップを考えるなど。
- ・高齢期（65歳前後）においては、新しいことを始める人が多い。向学心や向上心がある人は楽しんで社会と関わる。これを支えるのが生涯学習環境。

#### 【高橋委員】

- ・札幌市転入により社会との関わりがなくなってしまったので、それを取り戻すためボランティアを始めた。これにより新たなつながりが生まれた。
- ・高齢者のデジタルデバインド対策は重要。
- ・高齢期に入ると時間ができる。これを有効に使うような講座があると良い。
- ・夜間中学のボランティアから、学び直しのニーズと必要性を感じた。

#### 【出口委員】

- ・国主導で社会教育から生涯学習に転換してきた経緯があり、それに伴い地方も名称だけは変わってきたが、本来の生涯学習が問われている。
- ・学ぶことの必要性は個々人に委ねられるものだが、そこに行政が関わることに意義がある。
- ・公民館の役割を研究している中で、貸館だけでなく、地域づくりに関わる必要性を感じている。
- ・学ぶこと自体が目的ではなく、アウトプット（実践）が大事。
- ・成人期は仕事で忙しいと言われるが、働くだけでなくまちづくりやボランティア活動に関わることが大事で、これを評価する仕組みが必要。
- ・学生に対しては、時代の変化に合わせて学びも変化する。学び続けることが大事という話をする。

#### 【出葉委員】

- ・還暦を迎えて、時代状況の変化を感じる。公務員も定年延長の時代となり、ライフサイクルも変化する。
- ・教員の負担軽減やワークライフバランスが求められる時代となり、教員の働き方に対しても個々人のライフスタイルを重視するような感覚の変化が起きている。
- ・ICT化の急進に対して、子どもの適応力の高さを感じる。それに比べて大人がついていけない。対応力が求められる時代となった。
- ・こうした変化が早い時代を踏まえて、変わることに対応する学びの必要性を感じる。

#### 【中野委員】

- ・吹奏楽を続けていて、高齢者楽団員の熱心さを感じ、改めて生きがいの重要性を感じる。生きがいの創出により元気な年寄りになることが大切。
- ・中学高校と部活動を続けていて、良い成績を残していても、燃え尽きてしまう子どもがいる。やりたい事を続けることの難しさを感じる。これを続けられる環境や再開する契機が必要。
- ・部活動の大事さは人間関係を作る力を養うところにある。連携やつながり作りを是非地域の力でやっていると良い。

#### 【本間委員】

- ・高齢期に入り、改めて学びの意味を考えている。
- ・各世代の中にも壁（節目）があり、これを乗り越える時がポイント。そこをスムーズにするためにも、学校で社会とのつながりを感じる機会を作ることが必要。サタデースクールのように、学校と地域をつなぐ取組みが大切。
- ・退職すると社会との接点が一度に切れる。これを緩やかにつながっていけるようにしていくことが必要。
- ・孤立しないためにも地域で学ぶ大事さを感じている。

#### 【一戸委員】

- ・家庭の教育力の差を感じる。その差を地域で支える力があると良い。
- ・学校と社会教育のつながりや地域づくりにつながる社会教育が大事。
- ・学習の楽しさを子ども時代に感じてもらうことが大事で、これが生涯学習につながる。

#### 【榊委員】

- ・子育ての大変さを一貫して研究しており、地域ぐるみで子どもを育てる必要性を感じている。子育てにおける学習と連帯から、つながりを生み出す学びが大事。
- ・人生における「壁」の存在は実感できる場所。問題は社会から孤立してしまうことで、そこで感じた人生の矛盾といったことが学びのリソースになる。

#### 【鈴木議長】

- ・まちづくり活動に関わる楽しさが研究の原点で、ポイントは一緒に育っていくものだという点。その意味で、地域が学校である。
- ・まちづくりは作るものではない。最近では、「まち育て」という。
- ・まちづくり活動の参加者は総じて女性が多い。しかし、地域の歴史などテーマによっては男性が出てくる。そうしたきっかけづくり（仕掛け）が必要。
- ・大人のカルチャーナイトで、地域の施設をうまく使って交流の場を作ると、それが次の活動につながる。
- ・ボラベーション（ボランティア+イノベーション）研究会をやっており、地方におけるボランティア活動と体験や学びを組み合わせた取組みを実施している。

➤人生100年時代という根本的なテーマに対し、各委員から多様な意見をいただいたが、いくつかキーワードが見えてきた。

➤そこで、人生100年時代を豊かにする学びのキーワードを整理して、さらに具体的に議論することとした。

# 人生100年時代の生涯学習②

令和4年6月27日

(前回会議の意見)

(論点)

## 【幼児青少年期】

- 学ぶことの楽しさを知る工夫…③
- 地域と関わる実践的な学びの必要性…②
- 子どもの学びや活動を支える存在の重要性…②
- 子育て家庭を孤立させない  
地域のつながりの必要性 …①

## 【成人期】

- まちづくり活動やボランティア活動に  
参加すること…②
- 時代の変化と個々人の価値観の多様化  
に対応した学び…③
- ライフサイクルの節目に対応した学び…③
- 子育て家庭を孤立させない  
地域のつながりの必要性…①

## 【高齢期】

- 社会から孤立しない  
(つながる) 学びの機会…①
- 時代の変化に対応した学びの必要性…③
- 新たな興味関心を引き出す学びの必要性…③
- 学びから実践につなげる工夫(仕掛け)…②

## 🏠キーワード①【つながりを生む学び】

◎都市化が進み個人や家庭が孤立しがちな中  
新たな「つながり」を生み出すには、  
どのような工夫が必要か

- ▶子育て家庭を孤立させない学びの工夫
- ▶高齢者などを孤立させない学びの工夫

## 🏠キーワード②【学びから実践へ】

◎学んだ成果を活かして、  
地域での実践につなげるには  
どのような工夫が必要か

- ▶個人の学びを実践につなげる工夫
- ▶ボランティア活動やまちづくり活動  
につなげる学びの工夫
- ▶地域において子どもの学びや活動を  
支える人材を育成する工夫
- ▶学びを実践する場を提供する工夫

## 🏠キーワード③【学びの工夫】

◎人生のそれぞれの時期における学びに  
どのような工夫が必要か

- ▶幼少期に学びの楽しさを知る工夫
- ▶成人期に人生の節目に対応した学びの工夫
- ▶高齢期に新たな興味関心や時代の変化に  
対応した学びの工夫

➤前回の議論を踏まえ、人生の各世代において、ある程度共通した特徴的な意見から学びのキーワードを整理。

➤このキーワードに沿って、次の三つの論点で議論を進めることとした。

- つながりを生む学び
- 学びから実践へ
- 学びの工夫

➤議論の概要は次のとおり。



### 🏠キーワード①【つながりを生む学び】

◎都市化が進み個人や家庭が孤立しがちな中、新たな「つながり」を生み出すには、  
どのような工夫が必要か

- ▶子育て家庭を孤立させない学びの工夫
- ▶高齢者などを孤立させない学びの工夫

- ◆子育て家庭や高齢者を孤立させないため、セーフティネットの意味でも、デジタルデバイス対策は重要。メリットを実感してもらうような取組みが必要。
- ◆情報提供する側はデジタル化が進んでも、受け取る側がついていけない。特に高齢者は。
- ◆学校では一気に進んだが、これからの時代デジタルは結果的に子どもにとって自己実現の手段。家庭の格差もあり、大人への学びが必要。
- ◆町内会でもデジタル化が進んでいる。ハードはどんどん進化するが、まず興味をもつことが大事。そのためにもうまくきっかけを作ること。（孫とSNSでやり取りできるなど）
- ◆エストニアといった電子立国では、使えないと生活できないため、みんな使いこなしている。慣れが大事。
- ◆子育て家庭に対しては、子育てサロンをもっと活かさないか。
- ◆デジタル一辺倒でも良くない。ハイブリッドが良い。
- ◆工夫という意味では、託児付き学習会という取組がある。また、失敗をリソースにして、「できない」を共有すると孤立しない。
- ◆人生の各ステージをつなぐような仕掛け＝学び合いの機会があると良い。

### 🏠キーワード②【学びから実践へ】

◎学んだ成果を活かして、地域での実践につなげるにはどのような工夫が必要か

- ▶個人の学びを実践につなげる工夫
- ▶ボランティア活動やまちづくり活動につながる学びの工夫
- ▶地域において子どもの学びや活動を支える人材を育成する工夫
- ▶学びを実践する場を提供する工夫

- ◆生涯学習の目的は個人の中にあるもので、成果をまちづくりに結び付けることに違和感がある。結果に過ぎないのでは。
- ◆学びから実践へという視点はあり得る。行政側の視点としては、学んだことを活かしてもらうことは大事。
- ◆ボランティアの基本をわかって地域づくりに関わっているかどうかが大事。ボランティアとは何か、またどこに行ったら何ができるか、そういったことをつなぐコーディネーターが必要。
- ◆実践の場という意味では、地域施設の名前が変わってきている。神奈川県大和市のシリウスのように、気付きがある情報提供の場があると良い。
- ◆学ぶ意欲は学ぶ楽しさを知ること。生きがいになる。楽しいことが増えれば、それが行動につながり、人の役に立つ、まちの活性化につながるのではないか。

### 🏠キーワード③【学びの工夫】

#### ◎人生のそれぞれの時期における学びにどのような工夫が必要か

- ▶幼少期に学びの楽しさを知る工夫
- ▶成人期に人生の節目に対応した学びの工夫
- ▶高齢期に新たな興味関心や時代の変化に対応した学びの工夫

- ◆児童会館は子育てについて発信する場として有効。また、今の子どもには遊び場がないので、プレーパークを学生の企画でやってみるなど若い力を借りるのも良いのでは。
- ◆学びを身近に感じない人は、うまくやらなければと思っているのでは。ダメとわかることも学び。失敗を歓迎するような発想が大事。
- ◆札幌の図書情報館も工夫が多い施設で人気がある。いろんな仕掛けがあると行きやすく、また施設の機能も活きる。
- ◆場という意味では、地域での学校の活用も大事ではないか。
- ◆札幌だと「ちえりあ」が中核施設だが、もっと便利なところに、通いやすい場ができるとう良いのでは。
- ◆地方の公民館では、行ってみようやってみようという体験事業をやっていた。
- ◆きっかけづくりの意味では、講座などは「ちえりあ」だけでなく、区民センターなどでやっているものがあるが、身近な学びの場を総合的に検索できると良い。

- このような議論の結果、次の二つの視点が重要と整理した。
- まず第一には、「学び」に対して興味関心を持ってもらうことが大事であること。
- 次に、学んだ成果を実践することで、学ぶ楽しさを知り、生きがいにつながり、ひいては街の活性化にもつながるということ。
- 特に、日頃まったく生涯学習に縁のない市民にいかに関心を持ってもらうかという点は、人生100年時代の生涯学習を考える上で根本的な課題であることから、今回は「学びに対する無関心層にどう働きかけるか」というテーマで議論を行うこととした。

# 人生100年時代の生涯学習 ～学びに対する無関心層にどう働きかけるか①～

令和4年11月17日

## 【テーマ①】 ▶ **学びに対する無関心層にどう働きかけるか**

- ★子育て家庭を孤立させないためにも、様々な体験に興味がない家庭に、どうやって関心を持たせるかが大事
- ★高齢者の孤立を防ぎ、生きがいにつながるためにも、**いろんな情報をタイムリーに届けることが重要**
- ★学びに無関心な人に興味を持たせるのは難しいが、**どのようなアプローチをすれば効果があると考えられるか**
- ★新しい施設を作ることは難しいが、**今ある資源を活かして、どのようなことができるか**

市内の学習拠点	<b>都心</b>	<p><b>○札幌市図書・情報館</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「札幌市図書・情報館」「札幌文化芸術劇場（hitaru）」「札幌文化芸術交流センター（SCARTS）」の3施設からなる複合施設「市民交流プラザ」にある図書施設。</li> <li>・再開発事業により2018年に開館。</li> <li>・劇場と文化芸術交流センターは、公財）札幌市芸術文化財団を指定管理者とし、図書・情報館は市直営。</li> <li>・民間企業が入居するビルと一体となっており、都心部における新たな交流の場として、活用されている。</li> <li>・「図書・情報館」は貸出をしない「課題解決型図書館」の取組みが評価され、2019年Library of the Yearを受賞している。</li> </ul>	
	<b>地域</b>	<p><b>○札幌における生涯学習環境（施設）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各区には区民センターがあり、サークル活動や区民講座の場となっている。</li> <li>・区民センターのほかに地区センターがあり、身近な地域活動の場となっている。</li> <li>・区民センターや地区センターには図書館の機能もある。</li> <li>・各区に地区図書館があり、学びを深める場となっている。</li> <li>・さらに地域では、学校図書館地域開放事業も実施している。</li> <li>・全市的な生涯学習の中核施設として「生涯学習センター」と「中央図書館」がある。</li> </ul>	

## 【テーマ②】 ▶ **学びをボランティア活動やまちづくり活動につなげるには何が必要か**

- ★「学び」は個人的なものであるが、学んだことはやってみたくはならず
- ★学んだ成果を実践（行動）に結びつけることで、生きがいや人生の楽しみにつながる
- ★実践（行動）した結果が誰かのためになれば、それがやりがいになり、その輪が広がれば「まちの活性化」につながる
- ★学んだことを**自らの意思で実際の行動に移してもらう（ボランティア活動）**ためには、**どのような工夫（仕掛け）が有効か**

※「ボランティア」とは…

- ・意味は「自分の意思で自ら進んでやること」で、自発的な意思で人や社会に貢献すること
- ・定義は「仕事、学業とは別に地域や社会のために時間や労力、知識、技能などを提供する活動」
- ・ボランティアの4原則
 

【自発性・自主性】	= 自ら進んで行動する
【無償性・互酬性】	= 見返りは求めない
【社会性・連帯性】	= 互いに助け合いながら行動する
【先駆性・創造性】	= 仕組みや枠組みにとらわれず、何が必要か考えて実施する

- ▶ 学びに対する無関心層にどう働きかけるかというテーマを議論するに際し、前回の議論にもあった都心部の新たな図書館として高い評価を受けている「札幌市図書・情報館」を視察することとした。
- ▶ そこで実践されている様々な工夫や仕掛けを視察し、その意図やねらいなどを担当者から説明を受ける中で、様々な気づきがあり、その結果を踏まえて意見交換を行った。
- ▶ 「札幌市図書・情報館」の特徴、及びその後に行った意見交換の概要は次のとおり。
- ▶ また、札幌市の生涯学習環境を踏まえて、今ある資源を活かしてどのようなことができるか考えることが重要であることから、引き続きそういった視点で議論することとした。

## 【札幌市図書・情報館～視察】

- 『はたらくをらくにする』をコンセプトに掲げ、特に都心で働く人や起業を目指す人などを支援する課題解決型図書館。
- 課題解決に役立つため、いつでも最新の図書・情報が手に入るようにしている。  
→貸出はしない
- 「WORK」「LIFE」「ART」の三つのエリアに分け、分野ごとに専門的な図書等を配置。
- 日本十進分類法ではなく、司書がそれぞれテーマに沿った本棚作りをしている。  
→本棚がおもしろいと評価
- リサーチカウンターでは、司書のサポートだけでなく、関連機関と連携した相談を実施。
- 本を借りる場所ではなく、アイデアが飛び交う場。→問題を解決し、頭をクリアにできる場所。
- 飲食も会話も可能であり、自由な空間（現在はコロナの影響のため、食は不可）。  
席の予約も可能。

はたらくをらくにする。



## 【札幌市図書・情報館の視察を終えて】

- 「学ぶ」「生涯学習」という言葉に抵抗感があるのではないか。  
学びにつながることを身近に感じてもらう工夫が必要ではないか。  
(あえて「遊び (play)」と表現するなど)
- 「学び」とは、と構えてしまうと重く感じてしまう。  
それぞれの興味関心に働きかける、「身近なきっかけづくり」が大事ではないか。
- 学ぶきっかけは、日々の生活の中で自然に生まれてくる、その人にとって「必要なこと」にある。  
「必要なこと」は誰でもスマホで検索することはあるが、学びや行動に移すためには、そこからさらに次のステップに向かうよう働きかけることが大事で、そのためには、検索の次に「必要な情報」につなげることが大事。
- 「学ぶ」＝「学習」にしてしまわないことが大事ではないか。  
(「学習」はどうしても学校教育のイメージにつながる)  
図書・情報館は、常に学びを必要としている「人」の目線に立って、それぞれが抱える「悩み」＝テーマに寄り添った対応をしており、これが効果的だと感じる。

➤視察及び意見交換を踏まえて、引き続き「学びに対する無関心層にどう働きかけるか」について議論することとした。



# 人生100年時代の生涯学習 ～学びに対する無関心層にどう働きかけるか②～

令和5年1月27日

- 前回に引き続き、「学びに対する無関心層にどう働きかけるか」をテーマに議論を行った。
- 議論に際しては、札幌市における図書館等の配置など、現状の生涯学習環境を踏まえて、できるだけ具体的な提案につながるよう意見交換を行った。
- 主な意見については、次のとおり。

- 無関心層といっても多様であり、まずは思いのある人にどう働きかけるかが大事。いろんな講座で無料のお試し期間を設けるなどもその一つ。やってみないとわからないこともある。
- 情報を得られない人に効果的に情報届けることが大事ではないか。自身のNPOの活動ではSNSを活用しているが、対象者に応じてサービスを使い分けている。
- マンションの掲示板の情報でボランティア活動を始めた。身近なところに情報が届くと良い。
- 「広報さっぽろ」は特に高齢者には有効なメディア。エリアによってはフリーペーパーの活用なども有効。
- 現役の職業人を活用してはどうか。近くに住む人にそれぞれの仕事にまつわる話をしてもらい機会を作る（誰でも先生）というの（特に子どもたちにとっては）有効ではないか。
- 子育て中の方は、とにかく時間がない。また、子育てしながら学ぶという環境もない。そういった生活状況に配慮した学習環境の整備も必要ではないか。子どもや子育てに関することで知りたいことは多々あるはず。
- オンデマンドやオンラインの活用といった環境整備が必要。こうした環境が、隙間時間の活用や朝活につながる。そのためにも、参加者の希望やニーズをとらえることが重要。
- 学びのコミュニティを広げるような取組も有効ではないか。異業種交流を通じて、教える教えられるといった関係を作るような。
- 最近リスキングという言葉が流行っている。人生100年時代と言われて、何かやらなきゃと思っている人は多い。そうした人には、成功例（ロールモデル）を示してやるのが効果的。
- 学びの場と言うと同じような人が集まっている印象が強い。もっと多様な人が交流するような場づくりが必要ではないか。（※下北カレッジ）
- 生涯学習に関しては、従来の趣味教養から脱却し、キャリア形成を踏まえた職業教育やスキルアップにも目を向ける必要がある。特にこれから若者には必要。
- 学校教育において、子どもを生涯にわたって学び続ける人に育てることが大事。そのためにも子ども時代から自分のキャリアイメージを持つことが重要。
- 学生を見ていると全くの無関心という人はいない。琴線に触れるテーマに出会えば人は大きく変わる。その人にとって何が効果的かわからないので、学びの見本市のような機会があると良い。



# 人生100年時代の生涯学習 ～学びに対する無関心層にどう働きかけるか～

令和5年3月16日

➤前回の会議までの議論を通じて、人生100年時代の生涯学習、特に学びに関心のない市民に対して、これからの時代を生きいきと豊かに生きるための学びの機会をいかに提供するかといった視点で、何点か重要な示唆があった。

## ●学習に関する情報提供の工夫

- ・対象者に応じた工夫➡高齢者・子育て世帯など対象者を見定めることが大事
- ・手法の工夫➡SNS・フリーペーパー・広報さつぽろなど対象者に応じて選択

## ●時代の変化に応じた学習内容の工夫

- ・幼少期からの人生100年時代を見据えたキャリア教育の重要性
- ・ロールモデルの提供（生の声が聞けるトークセッションなど）
- ・リスキリング機会の充実

## ●多様な人が集まる交流の場づくり

## ●オンラインの活用など学習手法の工夫

➤これを踏まえて、最後に総括的な意見交換を行った。主な意見の概要は次のとおり。

3月16日の意見交換を記載(予定)

## 社会教育委員会議 委員名簿

(任期 令和3年7月1日～令和5年6月30日)

	氏名	区分	所属
議長	鈴木 克典	学識経験者	北星学園大学 経済学部経営情報学科 教授
副議長	出口 寿久	//	北海道科学大学 全学共通教育部 教授
委員	出葉 充	学校教育関係者	札幌市小学校長会 (札幌市立桑園小学校長)
	高橋 仁美	社会教育関係者	公募委員
	中野 吉朗	//	札幌市PTA協議会 会長
	本間 雄一	//	公募委員
	一戸 美代子	家庭教育関係者	NPO法人 あじさいサポートネット 代表理事
	安田 香織	//	NPO法人 子どもの未来・にじ色プレイス 代表理事
	白井 栄三	学識経験者	北海道教育大学 岩見沢校 非常勤講師
	榊 ひとみ	//	札幌学院大学 人文学部こども発達学科 准教授



【テーマ①】▶**学びに対する無関心層にどう働きかけるか**

- ★子育て家庭を孤立させないためにも、様々な体験に興味がない家庭に、どうやって関心を持たせるかが大事
- ★高齢者の孤立を防ぎ、生きがいにつなげるためにも、いろいろな情報をタイムリーに届けることが重要
- ★学びに無関心な人に興味を持たせるのは難しいが、どのようなアプローチをすれば効果があると考えられるか
- ★新しい施設を作ることは難しいが、今ある資源を活かして、どのようなことができるか

【札幌市図書・情報館～視察】

- 『はたらくをらくにする』をコンセプトに掲げ、特に都心で働く人や起業を目指す人などを支援する課題解決型図書館。
- 課題解決に役立つため、いつでも最新の図書・情報が手に入るようにしている。→貸出はしない
- 「WORK」「LIFE」「ART」の三つのエリアに分け、分野ごとに専門的な図書等を配置。
- 日本十進分類法ではなく、司書がそれぞれテーマに沿った本棚作りをしている。→本棚がおもしろいと評価
- リサーチカウンターでは、司書のサポートだけでなく、関連機関と連携した相談を実施。
- 本を借りる場所ではなく、アイデアが飛び交う場。→問題を解決し、頭をクリアにできる場所。
- 飲食も会話も可能であり、自由な空間（現在はコロナの影響のため、食は不可）。席の予約も可能。

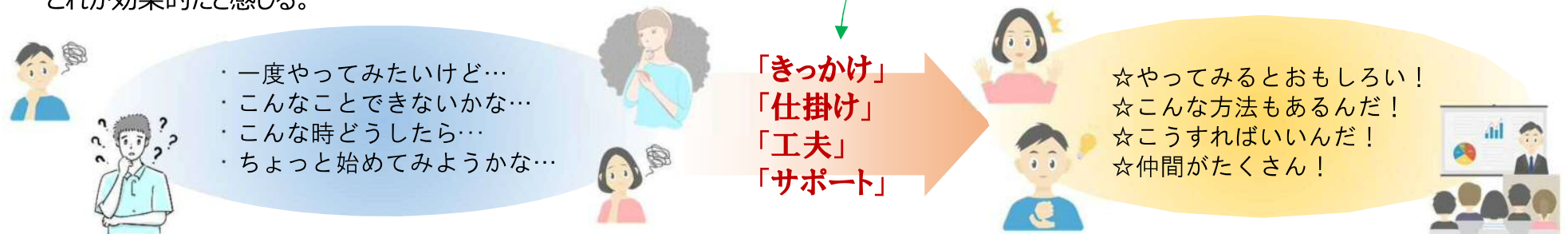
はたらくをらくにする。



【札幌市図書・情報館の視察を終えて】

- 「学ぶ」「生涯学習」という言葉に抵抗感があるのではないか。  
学びにつながることを身近に感じてもらう工夫が必要ではないか。（あえて「遊び（play）」と表現するなど）
- 「学び」とは、と構えてしまうと重く感じてしまう。  
それぞれの興味関心に働きかける、「身近なきっかけづくり」が大事ではないか。
- 学ぶきっかけは、日々の生活の中で自然に生まれてくる、その人にとって「必要なこと」にある。  
「必要なこと」は誰でもスマホで検索することはあるが、学びや行動に移すためには、そこからさらに次のステップに向かうよう働きかけることが大事で、そのためには、検索の次に「必要な情報」につなげることが大事。
- 「学ぶ」＝「学習」にしてしまわないことが大事ではないか。（「学習」はどうしても学校教育のイメージにつながる）  
図書・情報館は、常に学びを必要としている「人」の目線に立って、それぞれが抱える「悩み」＝テーマに寄り添った対応をしており、これが効果的だと感じる。

どのような具体策が考えられるか？



## 【テーマ①】 ▶ **学びに対する無関心層にどう働きかけるか**

- ★子育て家庭を孤立させないためにも、様々な体験に興味がない家庭に、どうやって関心を持たせるかが大事
- ★高齢者の孤立を防ぎ、生きがいにつなげるためにも、いろんな情報をタイムリーに届けることが重要
- ★学びに無関心な人に興味を持たせるのは難しいが、どのようなアプローチをすれば効果があると考えられるか
- ★新しい施設を作ることは難しいが、今ある資源を活かして、どのようなことができるか

都心  
市内の学習拠点  
地域

### ○札幌市図書・情報館

- ・「札幌市図書・情報館」「札幌文化芸術劇場（hitaru）」「札幌文化芸術交流センター（SCARTS）」の3施設からなる複合施設「市民交流プラザ」にある図書施設。
- ・再開発事業により2018年に開館。
- ・劇場と文化芸術交流センターは、公財）札幌市芸術文化財団を指定管理者とし、図書・情報館は市直営。
- ・民間企業が入居するビルと一体となっており、都心部における新たな交流の場として、活用されている。
- ・「図書・情報館」は貸出をしない「課題解決型図書館」の取組みが評価され、2019年Library of the Yearを受賞している。

### ○札幌における生涯学習環境（施設）

- ・各区には区民センターがあり、サークル活動や区民講座の場となっている。
- ・区民センターのほかに地区センターがあり、身近な地域活動の場となっている。
- ・区民センターや地区センターには図書館の機能もある。
- ・各区に地区図書館があり、学びを深める場となっている。
- ・さらに地域では、学校図書館地域開放事業も実施している。
- ・全市的な生涯学習の中核施設として「生涯学習センター」と「中央図書館」がある。



## 【テーマ②】 ▶ **学びをボランティア活動やまちづくり活動につなげるには何が必要か**

- ★「学び」は個人的なものであるが、学んだことはやってみたくはなるはず
- ★学んだ成果を実践（行動）に結びつけることで、生きがいや人生の楽しみにつながる
- ★実践（行動）した結果が誰かのためになれば、それがやりがいになり、その輪が広がれば「まちの活性化」につながる
- ★学んだことを自らの意思で実際の行動に移してもらう（ボランティア活動）ためには、どのような工夫（仕掛け）が有効か

### ※「ボランティア」とは…

- ・意味は「自分の意思で自ら進んでやること」で、自発的な意思で人や社会に貢献すること
- ・定義は「仕事、学業とは別に地域や社会のために時間や労力、知識、技能などを提供する活動」
- ・ボランティアの4原則
  - 【自発性・自主性】＝自ら進んで行動する
  - 【無償性・互酬性】＝見返りは求めない
  - 【社会性・連帯性】＝互いに助け合いながら行動する
  - 【先駆性・創造性】＝仕組みや枠組みにとらわれず、何が必要か考えて実施する